

生物多様性条約第 12 回締約国会議 (COP12) について

1. 開催地 韓国・平昌（ピョンチャン） アルペンシア国際会議場
2. 開催日時 平成 26 年 10 月 6 日（月）～17 日（金）
3. 会議テーマ 持続可能な開発のための生物多様性

4. 主要な議題

① 生物多様性地球戦略 2011-2020 及び愛知目標の中間評価

COP12 で公表される地球規模生物多様性概況第 4 版 (GB04) の報告を元に、生物多様性戦略計画 2011-2020 (戦略計画) 及び愛知目標の達成可能性について検討し、今後 2020 年までに加速化が必要な施策について優先的な行動リスト (Potential Key Action) をとりまとめる予定。

② 資源動員戦略

COP11 で生物多様性に関する国際資金フローを 2006-2010 年までの平均値に比べて 2015 年までに倍増し、2020 年まで維持する暫定目標が決定されたが、その後各国に提出を求めた報告枠組みの内容等を踏まえ、最終目標の採択について議論される予定。

③ 持続可能な開発と生物多様性

2015 年に国連総会で採択される予定の持続可能な開発目標及びポスト 2015 年国連開発アジェンダへの、条約の目的、戦略計画及び愛知目標の反映について議論される予定。

5. 関連会合

- 閣僚級会合 10 月 15 日～17 日
- カルタヘナ議定書第 7 回締約国会議 (COP-MOP7) 9 月 29 日～10 月 3 日
- 名古屋議定書第 1 回締約国会合 (COP-MOP1) 10 月 13 日～17 日を予定
(名古屋議定書は 7 月 14 日に批准国数が 50 ヶ国に達し、10 月 12 日に発効予定)
- 生物多様性自治体会議 10 月 12 日～14 日
- ビジネスと生物多様性フォーラム 10 月 12 日～14 日

6. 想定される成果

戦略計画 2011-2020 の実施及び愛知目標の達成に向けた主要な決定をパッケージ化した「ピョンチャンロードマップ 2020」を採択予定。含まれる決定は①GB04 の主要なメッセージと行動リスト、②持続可能な開発、③能力養成・科学技術協力・技術移転、④資源動員戦略等。これにより、2020 年までの戦略計画実施及び愛知目標達成に向けた道筋の明確化が期待されている。

(参考 1) COP12 議題案

I. 組織事項

II. 報告事項

III. 生物多様性戦略計画 2011-2020 及び愛知目標の評価及び実施強化

- 地球規模生物多様性概況第 4 版
- 生物多様性戦略計画 2011-2020 及び愛知目標の中間評価並びにその実施強化
- 能力養成、科学技術協力等による条約及び戦略計画実施支援状況の評価
- 資源動員
- 資金メカニズム
- 生物多様性と持続可能な開発
- ジェンダーの主流化

IV. 条約の作業計画に基づく事項

- ABS に関する名古屋議定書
- 条約 8 条(j) 項及び関係事項
- 責任と共催
- 海洋と沿岸の生物多様性
- 侵略的外来種
- 世界植物保全戦略
- 新規事項：合成生物学
- 生物多様性と気候変動
- 生態系の保全と再生
- 生物多様性の持続可能な利用：ブッシュミートと野生生物管理
- バイオ燃料と生物多様性
- 他の条約、国際機関、ビジネスを含めたステークホルダーとの協力

V. 条約の実施と協力

- 条約の構成とプロセスの効率性向上
- 2020 年までの条約の他年度作業計画
- 2014 年-2015 年の作業計画予算

VI. その他事項

(参考2) 地球規模生物多様性概況第4版(GB04)報告書案の概要

(1) GB04 について

各国から提出された国別報告書、生物多様性国家戦略、既存の生物多様性に関する研究やデータを分析し、戦略計画及び愛知目標の達成状況及び今後の達成見込みについて分析した報告書

(2) 主要なメッセージは以下のとおり。

- ① 各国において目標達成に向けた前向きな成果が見られる一方で達成に向けた多くの課題がある。
- ② 陸域の保護地域に関する目標（目標 11）のように一定の進展があるものの、達成が見込まれるのは目標 11（陸域のみ）、16 及び 17。
- ③ 目標達成には追加的な対応が必要。社会の生物多様性損失への対応は増加しており、圧力が少なくとも 2020 年まで増加することから、生物多様性の状況も悪化し続ける。
- ④ 戦略目標 A や愛知目標 17（生物多様性国家戦略）、目標 20（資源動員）は他の目標達成に大きく影響。また、愛知目標の達成は 2015 年以降の持続可能な開発目標の達成にも、貧困と飢餓の減少、健康の増進、エネルギー・食料・水の供給等にも貢献する。
- ⑤ 生物多様性戦略計画 2011-2020 に掲げられた 2050 年のビジョンを達成し、気候変動に伴う温度上昇を二度以下に抑え、開発目標を同時に達成するためには、大きな社会の変化が必要。

(3) GB0 報告書案の詳細

<http://www.cbd.int/en/gbo4>